

◆実践問題3◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

昔、元正天皇の御時、美濃国に貧しく賤しき男

ありけるが、老いたる父を持ちたりけり。この男、

山の本草を取りて、その値を得て父を養ひけり。

この父、朝夕あながちに酒を愛しほしがる。これ

によりて、男、なりひさごといふものを腰につけ

て、酒を売る家に行きて、常にこれを乞ひて父を

養ふ。

ある時、山に入りて、薪を取らむとするに、苔深

き石にすべりて、うつぶしにまろびたりけるに、

酒の香りのしければ、思はずにあやしくて、その

あたりを見るに、石の中より水の流れ出づること

あり。その色、酒に似たり。汲みてなむるにめでた

き酒なり。うれしく覚えて、そののち日々にこれ

を汲みて、あくまで父を養ふ。

時に帝、このことを聞こし召して、霊亀三年九

月に、その所へ行幸ありて御覧じけり。これすな

はち至孝の故に、天神地祇あはれみて、その徳を

あらはすと感ぜさせ給ひて、後に美濃守になされ

にけり。その酒の出づる所をば、養老の滝とぞ申

す。且つはこれによりて、同じ十一月に、年号を養

老とぞ改められける。